

バーチャルフォトウォークを利用した高齢者・障がい者支援

—ICT を利用した高齢者・障がい者の孤独を解消する取組み

■取組みの概要

バーチャルフォトウォークは、病気、障がい、高齢等の理由で外出困難な人々に、日本のみならず世界各地から写真家（プレゼンター）が美しい景色と会話をライブ配信して孤独感や疎外感を解消する、ICT(情報通信技術)を活用した新しい社会貢献・福祉活動です。現在イベントは Zoom を介して週 2 回程度、毎回 40 分の配信で、簡単な登録のみで参加可能、すべて無料です。ライブイベントで双方向のコミュニケーションが孤独を防止するポイントです。

本事業は 2012 年、カナダ・オンタリオ州の写真家ジョン・バテリル氏により創設されました。2016 年には活動を知った永堀典子さん（現代表理事）がバテリル氏に連絡を取り、許可を得て日本の任意団体として活動を開始し、2021 年 5 月には東京都の認証を受け、特定非営利活動法人バーチャルフォトウォークとして運営を開始しました。

現在月 8 回程度のライブイベントを行っており、毎回平均 20 名前後の参加があります。参加者には筋ジストロフィー、ALS、気管切開した医療的ケア児者、その他療養中の患者などが含まれています。プレゼンターは欧米を中心に世界中に 200 人以上いて、日本からも 30 人以上が活躍しています。そのため、視聴者は寝ながらカナダのバルサム湖の夕日を見たり、エジプトのピラミッド、ギリシャのミコノス島、イタリアの世界遺産を見たりすることができます。同時に、海外の視聴者が上野の満開の桜や晴天の富士山を見て感動することもあります。プレゼンターはバテリル氏から独自のトレーニングを受け、テストウォークに合格した人のみが任務につきます。

NPO 法人バーチャルフォトウォークの法人事務所は東京都足立区にあります。運営には中間支援団体である足立区 NPO 活動支援センターのほか、福祉活動という点で足立区社会福祉協議会地域福祉課の方々に多大なご支援をいただいています。また、民間の支援者としては北海道札幌市の IT 企業プロテック株式会社が企業の CSR 活動の一環として社員をプレゼンターとして派遣してくださっているほか、北海道苫小牧市の NPO 法人テレサの丘が施設にて療育中に重症児に視聴させてくれています。また、足立区のスマイル訪問看護ステーションは、施設にも行けない重篤な難病児にタブレットを提供できるよう視聴者の紹介をしてくれています。さらに、文教大学あだちキャンパスでは「地域サー

ビスラーニング」「ボランティア体験」という科目の選択肢として、希望する学生をプレゼンターとして派遣してくれています。まだ数は多くありませんが、少しずつ協力者が増えています。

■ イベントについて

バーチャルフォトウォークのHPより簡単な視聴者登録をすると、Zoom招待リンクが記載された[イベントのお知らせ]メールが届くようになります。そのイベントの日時に合わせ、送られたZoomリンクをクリックすると、イベントに参加できます。そこでは、ハイライトされたプレゼンターが自己紹介し、紹介する場所を説明します。参加者のなかには、ベッドから、病院から、という方もおられるでしょう。その場合は自分のビデオをオフにして参加できます。

すべてのイベントにはホストとモデレーターが視聴者と一緒に参加して、会話が弾むようプレゼンターと視聴者を取り持ちます。プレゼンターの言語が外国語の場合、モデレーターがチャットに要約翻訳を入力し、全員が話についていけるよう尽力します。また、視聴者は、いつでも、どんな方法でも（音声、チャット）でも感想を述べたり、質問をしたりできるようになっています。

イベントにはインターネット環境さえあれば全国どこからでも誰でも参加できるのがこの取組みの利点です。



■ 取組みにあたって苦労、苦慮した点

課題は3点ほどあります。

第一に資金面です。視聴者は障がい者や難病患者が多く、今後はより積極的に企業への

協賛を呼びかける必要性を感じています。また、日本への世界的旅行ブームにより、日本独自の景観はとても喜ばれています。このようなコンテンツを増やすことにより、海外からの寄付も募ってまいります。

第二は利用者の拡大を図るための広報・周知活動です。活動が必要とする方にまだまだいきわたっていないと感じることが多々あります。もっと病院、施設、各種支援団体に知ってほしいと願っています。一方、人材面では現状専任職員が2名となっており、運営の機動力に課題を感じています。

第三はインターネット環境とコンピューターリテラシーの問題です。日本では個人でスマホにて視聴される方が多く、できればパソコン、タブレット、大型スクリーンで自然の風景を視聴していただきたいと思っています。特に、高齢者に関してはこうした適切な視聴環境の設定が難しく、行き詰まりを感じていました。高齢者施設の管理者の方が積極的に取り組んでいただければ、もっと皆さんにお楽しみいただけると思います。

■取組みの効果

特に取組みの効果があったのは、社会資源が少なくなる19歳以上の医療的ケア者です。19歳以上では放課後デイサービス等の利用ができなくなり、自宅で過ごす時間が長くなります。社会から隔絶され、友人と過ごすこともできません。就業もできないこうした若者が、寝たきりのままタブレットパソコンを活用してバーチャルフォトウォークに参加することにより、世界の景色をライブ視聴できるばかりか、国内外の参加者たちと友人にもなれるといった体験を得ることができました。この様子を2分ビデオにまとめた「彩音ちゃんの世界旅行/Ayane Discovering the World」(写真参照)は、Zoom社主催の「第一回イノベーションアワードビデオコンテスト」にて最優秀賞を受賞しました。その後のコロナ禍でZoomの利用者が増加し、バーチャルフォトウォークの理解は加速しました。

■取材をして

取材には創立者のバテリル氏も参加していただき、今後の目標を語ってくれました。いまは医療的ケア児者や高齢者等が主な視聴者ですが、何かの理由で引きこもっているような若者たちにもチャンスを提供できれば、と考えておられます。例えば英語やプログラミングを学んでもらい、世界的に活躍できる若者を育て、生きがいと産業に寄与できる可能性があるとも言っています。スティーブン・ホーキング博士のように、肢体不自由であっても持っている才能を最大限引き延ばしていきたい。現状はそう大きな活動ではありませんが、孤独・孤立社会を解決する大きな可能性を持っていると思っています。ALSのような難病の方でも、寝たきりのままモデレーターとして仕事に就くこともできます。多言語を学べば、医療通訳者として活躍する可能性もあり、いままでになかった雇用を生み出すことができるかもしれない、と熱く語っていただきました。

インタビューを通じて感じたのは、ALSなど病気や寝たきりのため孤独になっている

人たち、外出が難しいだけで社会から疎外感を感じている人たちを社会に結びつけていきたい、という熱い思いです。誰にでもチャンスがあり可能性があることを伝え、社会で、さらには世界で活躍してほしい、との祈りに近いメッセージをいただきました。まだ活動は小さいのですが、もっと知っていただければ連携者がたくさん現れそうだとインタビューをされていて感じました。大いに可能性を秘めた団体でした。

(取材者 奥山千鶴子)

協賛企業
プロテック(株)

バーチャルフォトウォーク イメージ

運営支援：
NPO支援センター



景色



ホスト



モデレーター

社会福祉協議会



文教大学
社会サービス
ラーニング



プレゼンター



視聴者

NPOテレサの丘